

氏名	高村夏輝	部署	共通教育科	職名	准教授
研究分野	哲学・倫理学				
学位	博士（学術）				
学歴	東京大学大学院総合文化研究科博士課程修了				
経歴	松蔭大学経営文化学部講師を経て現職				
所属学会（役職）	日本科学哲学会、科学基礎論学会、応用哲学会				

【2022年度実績】

1. 研究業績							
(1) 著作							
	著作の名称	単・共	ISBN	発行所、全ページ数	著者、編者名	発行等年月	
1	該当なし						
(2) 論文							
	論文の名称	単・共	査読	IF対象誌	雑誌名、巻（号）、開始-終了ページ	著者、編者名	発表等年月
1	語りえぬものを歌うー人生の意味、ウィトゲンシュタイン、小沢健二	単著	あり		和光大学現代人間学部紀要 第16号 39-56頁	高村夏輝	2023年3月
(3) 学会発表							
	学会発表の演題	単・共		学会名、開催都市	発表者（発表者は○印）	発表等年月	
1	該当なし						
(4) その他							
	名称	単・共		発表場所等	発表者（発表者は○印）	発表等年月	
1	該当なし						
2. 競争的資金等の研究							
	競争的資金等の名称			研究名	研究代表者・研究分担者の別	研究期間	
1	文部科学省・日本学術振興会科学研究費補助金（基盤研究C）			ラッセル的一元論による現象的意識の解明	研究代表者	2021～2025年度	
3. 教育業績							
(1) 講義							
	講義の名称	科目責任者	コマ数	概要（教育内容・方法等において工夫した点）			
1	倫理学	○	30	道徳的に生きるべき理由などのメタ倫理学と、功利主義および義務論という規範倫理学について講義した。2年次以降に開講されている「生命倫理の諸問題」との接続を意識して話題・論点を選択した。			
2	生命倫理の諸問題	○	32	脳死・臓器移植、生殖技術、安楽死という三つの話題に絞り、複数の資料を使って議論を深められるようにした。また学生を少数のグループに分け、まずは資料を基にディスカッションを行って意見をまとめてもらい、その次の回で講義をすることで、学生が各自で考察を深められるようにした。			
3	哲学	○	15	心身問題をテーマとして、心身二元論、心脳同一説、機能主義などの立場を紹介した。また汎用人工知能など、現在話題になっている技術的可能性も検討することで、理論的問題を社会の現実的問題と接合した。			
4	ヒューマンケア論		2	倫理学における「ケア」の概念の重要性を示すために、功利主義と義務論における一般的な原理・原則・規則の使用とその限界を強調し、「ケア」概念が捉える個人的関係が倫理的決定に果たす役割を論じた。			
5	人間の探求		8	全8回の内、2回は授業テーマの提題者となった。1度目のテーマは「人生の意味の問い」であり、その問いに答えることがなぜ難しいのかを解説した。2度目のテーマは「死の意味」であり、「自分が死ぬことの恐ろしさを理解するとき、自分の死をどのように捉えているのか」を論じた。学生を3人ずつのグループに分け、ホワイトボードでテーマについて考えてもらい、そのうちのいくつかの意見を踏まえて講義を進めた。残りの回では、他の先生の授業に疑問を投げかける訳、4人の教員によるディスカッションなどの形で参加した。			

(2) 演習					
	演習の名称	科目責任者	コマ数	概要（教育内容・方法等において工夫した点）	
1	教養ゼミ	○	8	大森荘蔵の著作『流れとよどみ』を題材として、主に心身問題に関わる話題を取り上げた。学生にはあらかじめ資料を読み、疑問点を提出してもらった。そのうえで10名の学生を2グループに分け、グループで資料に対する疑問点、批判的議論を出すよう求めた。そしてそれに対して著者がどのように答える可能性があるかを講義することによって、心身問題の奥行きを学生がとらえられるよう工夫した。	
(3) 実習					
	実習の名称	科目責任者	学外実習：期間 学内実習：コマ数	概要（教育内容・方法等において工夫した点）	
1	ヒューマンケア体験実習		8	2チームを担当し、グループディスカッションの進行管理を行った。	
(4) 論文指導					
	対象	期間	主指導・副指導の別及び指導人数		
1	該当なし		主指導	名	副指導 名
(5) その他					
	名称	期間	概要（教育内容・方法等において工夫した点）		
1	該当なし				
4. 社会貢献活動					
(1) 講演会、研修会、公開講座等の講師					
	講演会、研修会、公開講座等の名称	主催	講演、研修、公開講座等のテーマ	開催年月	
1	授業公開	埼玉県立大学	『哲学』の授業に越谷市の高校に在学する生徒を2名受け入れた	2022年度後期	
(2) 国、自治体、学術団体等における委員等					
	国、自治体、学術団体等の名称	委員等の名称		任期	
1	該当なし				
(3) ジャーナリズムでの発言					
	メディア等の名称	内容			年月
1	該当なし				
(4) その他					
	項目	相手方等	内容		期間
1	該当なし				
5. 学内運営					
	項目	内容			期間
1	全学的委員会及びセンター業務等	教務委員会			2022年4月1日から現在に至る
2	全学的委員会及びセンター業務等	研究倫理委員会			2022年4月から現在に至る
6. 受賞（研究、教育、社会貢献活動に関するもの）					
	受賞名	主催		受賞年月	
1	該当なし				
7. 特許の取得					
	特許名	特許番号		登録年月	
1	該当なし				
8. 特記事項					
1	該当なし				